

2025年2月28日

各位

大阪府中央区瓦町三丁目5番7号
株式会社アドバンスクリエイト
代表取締役社長 濱田 佳治
(コード番号: 8798 東証プライム、福証、札証)
(連絡先) 取締役 総合企画部長 岡田 俊哉
電話 06-6204-1193

(訂正) 「2023年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の
一部訂正について

当社は、2023年8月10日に開示いたしました「2023年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部を訂正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 訂正内容と理由

訂正内容と理由につきましては、別途、2025年2月28日付「過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度の決算短信等の訂正に関するお知らせ」にてお知らせいたしておりますので、ご参照ください。

2. 訂正の箇所

訂正の箇所には__を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、訂正事項につきましては、訂正後のみを記載しております。

以上



2023年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月10日

上場会社名 株式会社アドバンスクリエイト 上場取引所 東 札 福
 コード番号 8798 URL <https://www.advancecreate.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 濱田 佳治
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 経営管理本部長 (氏名) 櫛引 健 TEL 06-6204-1193
 四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第3四半期の連結業績（2022年10月1日～2023年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第3四半期	8,555	20.2	△272	—	△412	—	△1,203	—
2022年9月期第3四半期	7,115	△7.1	221	△81.6	153	△86.3	△820	—

(注) 包括利益 2023年9月期第3四半期 △1,185百万円 (—%) 2022年9月期第3四半期 △868百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第3四半期	△54.98	—
2022年9月期第3四半期	△37.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第3四半期	9,690	△1,104	△11.4
2022年9月期	10,450	835	8.0

(参考) 自己資本 2023年9月期第3四半期 △1,104百万円 2022年9月期 835百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	15.00	—	17.50	32.50
2023年9月期	—	17.50	—	—	—
2023年9月期（予想）	—	—	—	17.50	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年9月期の連結業績予想（2022年10月1日～2023年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	26.8	△310	—	△500	—	△480	—	△21.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 有

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年9月期3Q	22,557,200株	2022年9月期	22,557,200株
② 期末自己株式数	2023年9月期3Q	655,107株	2022年9月期	689,178株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年9月期3Q	21,884,696株	2022年9月期3Q	21,882,615株

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、「従業員持株会支援信託ESOP」制度に係る信託財産として、株式会社日本カストディ銀行 (信託口) が所有する当社株式及び「株式給付信託 (J-ESOP)」制度に係る信託財産として、株式会社日本カストディ銀行 (信託E口) が所有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2022年10月1日～2023年6月30日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類相当に移行したことに伴う個人消費の回復や、外国人によるインバウンド消費の増加に加え、企業の設備投資の拡大など、緩やかな回復基調となりました。堅調な企業業績を背景に日経平均株価もバブル後の最高値を更新するなど、株式市場は活況を呈した一方で、地政学的な不安定さや、円安及び資源高に起因するコストプッシュ型の物価高騰の影響もあり、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

保険業界においては、ITや医療技術の進歩を背景として、引き続き保険商品の多様化と高度化が進むと同時に、真にお客さまの役に立つ情報の提供並びにコンサルティングの実施等、お客さま本位の業務運営（フィデューシャリー・デューティー）の実現が求められております。

このような状況下、当社グループは「人とテクノロジーを深化させ進化する会社」を標榜し、あらゆる保険ニーズに対応できる「保険業界のプラットフォーム」と、OMO（Online Merges with Offline. =オンラインとオフラインの融合）時代に相応しいエコシステム（ビジネス生態系）を構築すべく、日々新たな挑戦を行っております。

具体的には、自社開発のビデオ通話システム「Dynamic OMO」により、対面と非対面の垣根をなくし、オフラインと同等のオンライン保険相談を実現しております。当社のオンライン保険相談は、時間と場所の制約を取り払った面談方法としてその利便性をお客さまに高く評価いただき、コロナ禍の行動制限がなくなった今も面談方法の一つとして幅広くご利用いただいております。2022年7月には、大阪大学の石黒浩教授が代表を務めるスタートアップ企業「AVITA」と提携し、同社が開発したアバターを活用して、お客さまのご相談にアバターコンサルタントがお答えするサービスを開始いたしました。「Dynamic OMO」とアバターを組み合わせた新しい保険募集のあり方を実現した結果、オンライン保険相談におけるコンサルタント指名予約においてはアバターが最も支持されております。保険会社や保険代理店向けにアバターの販売も行っており、既に複数社でアバターを導入いただくなど、保険業界全体のDX化にも貢献しております。また2023年6月にはAVITA社が開発した、ChatGPTを用いた「AI アバター接客トレーニングサービス（β）」を導入し、AIによる社員教育を開始するなど、先進的な技術の活用にも取り組んでまいります。

お客さまにご来店いただくコンサルティングプラザでは、各拠点をリニューアルするとともに、より多くのお客さまに、より快適に保険相談いただけるよう、人員の増強も行っております。これらのコンサルティングプラザを有効活用し、さらなる保険代理店事業の拡大を目指します。

また、2022年9月期より、自動車保険をはじめとする損害保険分野についても取り組みを強化しており、確実に成果が出ております。損害保険分野でのマーケティングオートメーションにも注力しており、自動車保険の見積りでお客さまに最適なプランを、簡単便利に、スピーディーにご契約いただける仕組みを構築しております。

保険業界の共通プラットフォームシステム「Advance Create Cloud Platform」（以下「ACP」という。）の開発についても、引き続き推進してまいります。ACPは保険会社と乗合保険代理店、お客さまの情報を相互に連携し、保険商品の検討からお申し込み、保全手続きまでを一括して管理・運用できるシステムです。ACPの普及により、ペーパーレス化と事務負担の大幅な軽減が期待できます。ACPの主要機能である顧客管理システム「御用聞き」、申込共通プラットフォームシステム「丁稚（DECHI）」、保険証券管理アプリ「folder」、ビデオ通話システム「Dynamic OMO」は、いずれも導入したお客さまからご好評をいただいております、さらなる機能拡充を進めております。特に

「Dynamic OMO」については、保険会社や保険代理店をはじめ、クレジットカード会社など他業種のお客さまにも導入いただいております。これらのシステムの販売により、サブスクリプションモデルとしてのストック収入の確保及び協業事業の拡大を目指します。

さらに、当社はLINE、SMS等のテキストコミュニケーションツールの活用により、お客さまとのよりスムーズなコンタクトを実現しております。このようなノウハウを、保険会社や乗合保険代理店の顧客に対する保全業務を請け負うBPO事業にも活用し、業容の拡大、及び保険業界の課題であるCRMの継続・改善にも取り組んでいきたいと考えております。これらの施策を拡充するとともに、ガバナンス体制及びコンプライアンス体制の一層の充実や、情報セキュリティ体制の強化を継続し、保険業法や個人情報保護法等の関係法令に適応した保険募集管理体制の強化に全社的に取り組み、管理体制面において積極的に経営資源を投下してまいります。

以上により、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,555百万円（前年同期比20.2%増）、営業損失は272百万円（前年同期は221百万円の利益）、経常損失は412百万円（前年同期は153百万円の利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,203百万円（前年同期は820百万円の損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

（保険代理店事業）

保険代理店事業におきましては、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,618百万円（前年同期比22.8%増）、営業損失は777百万円（前年同期は349百万円の損失）となりました。

（ASP事業）

乗合保険代理店等へのACPの新規販売が堅調に推移し、増収増益となりました。

この結果、ASP事業におきましては、当第3四半期連結累計期間の売上高は187百万円（前年同期比22.0%増）、営業利益は70百万円（前年同期比76.9%増）となりました。

（メディア事業）

保険選びサイト「保険市場（ほけんいちば）」への広告出稿が堅調に推移し、増収増益となりました。

この結果、メディア事業におきましては、当第3四半期連結累計期間の売上高は2,105百万円（前年同期比55.0%増）、営業利益は454百万円（前年同期比43.5%増）となりました。

（メディアレップ事業）

保険選びサイト「保険市場（ほけんいちば）」の運営を通じて蓄積したWEBマーケティングのノウハウをベースに、保険専門の広告代理店としてさまざまなサービスの提供に努め、前期に引き続き新たな広告手法を積極的に開発投資した結果、増収減益となりました。

この結果、メディアレップ事業におきましては、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,020百万円（前年同期比11.9%増）、営業利益は106百万円（前年同期比26.9%減）となりました。

（再保険事業）

売上高が引き続き堅調に推移した一方、新型コロナウイルス感染症の影響が残っていたことで再保険金の支払いが増加したことから、増収減益となりました。

この結果、再保険事業におきましては、当第3四半期連結累計期間の売上高は824百万円（前年同期比7.7%増）、営業損失は128百万円（前年同期は67百万円の利益）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産合計）

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ759百万円減少し9,690百万円（前連結会計年度末は10,450百万円）となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ755百万円減少しましたが、これは主に、未収還付法人税等が479百万円増加したのに対し、現金及び預金が1,205百万円減少したこと等によるものです。

（負債合計）

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,180百万円増加し10,795百万円（前連結会計年度末は9,614百万円）となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,518百万円増加しましたが、これは主に、短期借入金の増加900百万円、未払金の増加605百万円等によるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ337百万円減少しましたが、これは主に、社債の減少200百万円等によるものです。

（純資産合計）

純資産は前連結会計年度末に比べ1,940百万円減少しましたが、これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失1,203百万円、剰余金の配当による減少789百万円等によるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の連結業績予想につきましては、2023年5月12日付で公表いたしました通期業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日（2023年8月10日）公表の「2023年9月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,273,548	1,068,166
売掛金	1,748,862	1,787,004
未収入金	1,622,712	1,249,507
未収消費税等	258,545	505,172
未収還付法人税等	1,010,681	1,489,772
その他	1,090,946	1,149,940
流動資産合計	8,005,296	7,249,564
固定資産		
有形固定資産	4,006	1,085
無形固定資産		
ソフトウェア	124,109	174,257
その他	30,880	7,817
無形固定資産合計	154,990	182,074
投資その他の資産		
投資有価証券	119,164	147,422
差入保証金	694,850	855,965
保険積立金	764,910	443,222
繰延税金資産	106,882	129,940
その他	588,880	674,100
投資その他の資産合計	2,274,687	2,250,651
固定資産合計	2,433,683	2,433,811
繰延資産	11,213	7,160
資産合計	10,450,193	9,690,536
負債の部		
流動負債		
買掛金	85,042	158,762
短期借入金	—	900,000
1年内償還予定の社債	200,000	200,000
未払法人税等	121,006	96,954
未払金	1,110,741	1,716,596
預り金	395,610	397,616
債権流動化に係る調整勘定（負債）	4,723,136	4,752,672
リース債務	110,000	128,458
賞与引当金	178,002	98,174
その他	330,322	322,736
流動負債合計	7,253,862	8,771,971
固定負債		
長期借入金	256,250	230,320
社債	400,000	200,000
繰延税金負債	20,124	37,727
リース債務	704,300	705,531
退職給付に係る負債	416,197	427,896
資産除去債務	304,576	308,999
その他	259,227	112,915
固定負債合計	2,360,676	2,023,390
負債合計	9,614,538	10,795,361

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,158,703	3,158,703
資本剰余金	585,325	585,325
利益剰余金	<u>△2,401,584</u>	<u>△4,394,322</u>
自己株式	△552,474	△518,511
株主資本合計	<u>789,969</u>	<u>△1,168,804</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	45,684	63,979
その他の包括利益累計額合計	45,684	63,979
純資産合計	<u>835,654</u>	<u>△1,104,825</u>
負債純資産合計	<u>10,450,193</u>	<u>9,690,536</u>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
売上高	7,115,353	8,555,354
売上原価	1,904,900	2,870,368
売上総利益	5,210,452	5,684,986
販売費及び一般管理費	4,989,089	5,957,400
営業利益又は営業損失(△)	221,362	△272,413
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,737	2,325
受取保証料	6,878	6,971
貴金属地金売却益	19,061	—
為替差益	25,406	20
その他	4,311	4,603
営業外収益合計	57,396	13,921
営業外費用		
支払利息	10,314	12,929
支払手数料	108,239	130,696
その他	6,212	10,175
営業外費用合計	124,765	153,801
経常利益又は経常損失(△)	153,992	△412,293
特別利益		
保険解約益	—	9,972
特別利益合計	—	9,972
特別損失		
固定資産除却損	908	—
減損損失	772,697	581,259
ESOP信託終了損	10,925	—
保険解約損	—	35,783
特別損失合計	784,531	617,043
税金等調整前四半期純損失(△)	△630,538	△1,019,365
法人税等	190,105	183,957
四半期純損失(△)	△820,643	△1,203,322
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△820,643	△1,203,322

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失(△)	<u>△820,643</u>	<u>△1,203,322</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	<u>△47,612</u>	<u>18,294</u>
その他の包括利益合計	<u>△47,612</u>	<u>18,294</u>
四半期包括利益	<u>△868,256</u>	<u>△1,185,028</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△868,256</u>	<u>△1,185,028</u>
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

当社及び国内連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（会計方針の変更）

（税金費用の計算方法の変更）

従来、税金費用については原則的な方法により計算しておりましたが、四半期決算の対応を迅速かつ効率的に行うため、第2四半期連結会計期間より当社及び国内連結子会社の税金費用については、（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）に記載の方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2021年10月1日 至 2022年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	保険代理店 事業	ASP事業	メディア 事業	メディア レップ 事業	再保険事業	計		
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	4,373,684	153,523	1,358,595	463,771	765,777	7,115,353	—	7,115,353
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	4,373,684	153,523	1,358,595	463,771	765,777	7,115,353	—	7,115,353
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,015,339	—	—	447,886	—	1,463,226	△1,463,226	—
計	5,389,023	153,523	1,358,595	911,658	765,777	8,578,579	△1,463,226	7,115,353
セグメント利益又 は損失 (△)	△349,934	39,685	316,635	146,105	67,070	219,562	1,800	221,362

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額1,800千円にはセグメント間取引消去1,800千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失 (△) は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2022年10月1日 至 2023年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	保険代理店 事業 (注) 3	ASP事業	メディア 事業	メディア レップ 事業	再保険事業	計		
売上高								
顧客との契約から生じる収益	4,993,728	187,328	2,105,607	443,938	824,752	8,555,354	—	8,555,354
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	4,993,728	187,328	2,105,607	443,938	824,752	8,555,354	—	8,555,354
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,624,722	—	—	576,143	—	2,200,865	△2,200,865	—
計	6,618,450	187,328	2,105,607	1,020,082	824,752	10,756,220	△2,200,865	8,555,354
セグメント利益又は損失(△)	△777,518	70,184	454,400	106,733	△128,013	△274,213	1,800	△272,413

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額1,800千円はセグメント間取引消去によるものです。
 2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。
 3. 報告セグメント保険代理店事業の売上高のうち、生命保険及び損害保険の区分による売上高は、以下のとおりであります。

(単位：千円)

売上高	保険代理店事業セグメント		
	生命保険	損害保険	計
外部顧客への売上高	4,558,143	435,585	4,993,728
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,419,902	204,819	1,624,722
計	5,978,045	640,404	6,618,450

(重要な後発事象)

該当事項はありません。